



リクナビ進学ブック
進学事典

『進学事典』の講演と活用が 自分で動くきっかけになる

— 長崎・県立 島原商業高校 —

取材・文 / 永井ミカ



進路指導主事
原口雅瑞先生

School Data

創立1956年 / 家政科・情報処理科・商業科・国際経済科(国際経済科は募集停止)
生徒数 / 343人(男子73人・女子270人)
進路状況(2012年度) / 大学進学7.2%・短大進学13.2%・専各進学54.6%・就職23.7%・その他0.1%
長崎県島原市城内1-1213
TEL 0957-62-4059
URL <http://www.news.ed.jp/shimabara-ch/>

長崎県立島原商業高校は文武両道を備え活気あふれる伝統校。あいさつなどの規律を重んじ、部活動が盛ん。特にサッカー部は強豪として多くのプロ選手を輩出している。

宿泊合宿の進路講話で 3年間の進路指導がスタート

同校の伝統行事「全生寮」は、1学年の1学期、クラスごとに4泊5日で実施される宿泊学習。1959年に起きた生徒の非行問題をきっかけに誕生した行事で、掃除やあいさつといった生活の基本、自他とのコミュニケーションのほか、自己の成長に必要なことを多く学ぶ。中心となって指導に当たるのは、各クラスに4人ずつ派遣される3年生だ。

そして、「全生寮」の期間中に行われる進路指導主事による「進路講話」が、進路指導の一番初めの行事。今年度も主事として5年目の原口雅瑞先生が担当し、働く意義や社会人に求められていること、そのためにどんな高校生活を送ればよいのかなどを話した。そして、「毎年最も大切なこととして、『知識だけではなく行動に移しなさい。自分で気づいて自分で行動しなさい』と訴えています」と原口先生。このことが、3年間の進路指導の核となるのである。

その後、50人の職業人が登場する『じぶん未来BOOK』を配布。6月の生徒面談時に合わせて、付属のワークシートに取り

組む。「最低3人の職業人を読むように指導しています。職業人の生の声が聞けるので、これから将来を考えるにあたって参考にしたいとのねらいです」と原口先生。秋には第2回目の進路希望調査をとり、あとは2年生の前半にかけて、「高校生の進路ノート」や「進路のしおり」を使って、進路学習を進める。

進学希望者にも就職希望者にも 早めの行動が見られるように

進学が就職かが最終的に決まるのが2学年の3学期。この時期に進学希望者が使うのが『進学事典』だ。1月末ごろに『進学事典活用講演』を実施し、それから2月中旬くらいにかけて事典を使っての学校比較や付属の適性検査に取り組み。「進学事典を使って自分で調べ、比較し、

行動に移し、自分で決めるよう指導しています。ワークシートには真剣に取り組んでいます」と原口先生。その後、学校案内を自ら取り寄せるほか、進路指導室の利用が活発化したり、春休みのオープンキャンパスへの参加率が上がるなどの効果があったそうだ。

「事典の各学校の情報量が多いためか、志望校を早く絞り込めるようになりました。そして、そのことが就職希望者にもいい影響を与えているようです」と原口先生は言う。

進学希望者が進学事典を活用している間、就職希望者は前年度の求人票を参考に就職先を比較検討。早くから目標を絞り込み良い結果につながる例もでてきた。同校では今後も『進学事典』を「自ら動くためのきっかけになるツール」として活用していく考えだ。

進学推薦会議 個人情報

ダウンロード可

学校推薦を受けるために、進学希望の生徒が提出するもの。これまでの進路指導をふまえて自らが考えてきた志望動機や将来の希望、学びたいことなどを詳しく書き入れ、3学年の8月に提出する。

『進学事典』活用講演後のアンケートより

- 何に向いているか知ろうと思った 81%
- 学校をもっと調べようと思った 96%
- 学問をもっと調べようと思った 90%
- 仕事をもっと知ろうと思った 89%
- 学校パンフレットを取り寄せようと思った 68%
- 学校を見に行こうと思った 88%
- もっと勉強しようと思った 92%
- 何かやる気がわいた 75%